

令和2年度(2020年度)  
学校自己評価報告書

令和3年(2021年)6月

学校法人電波学園  
名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校

MEIGAISEN

## 《学校自己点検評価委員会》

|       |       |                      |
|-------|-------|----------------------|
| 委員長   | 浅野 諭  | (校長)                 |
| 副委員長  | 伊藤 洋子 | (統括科長)               |
| 実施責任者 | 矢島 親男 | (教務科長)               |
| 委員    | 坂口 大介 | (文化教養専門課程責任者/英語科)    |
|       | 金井 翼  | (商業実務専門課程責任者/国際ホテル科) |
|       | 市石 浩久 | (国際ホテル科)             |
|       | 金井美香子 | (ブライダル科)             |
|       | 加藤 舞  | (国際エアライン科)           |
|       | 神谷 公司 | (事務部長)               |
|       | 小野 徹  | (広報課)                |

|     |                         |      |
|-----|-------------------------|------|
| I   | 学校の現況                   | P 1  |
| II  | 評価の基本方針                 | P 2  |
| III | 教育目標・重点目標               | P 3  |
| IV  | 評価項目の達成及び取組状況           | P 4  |
|     | (1) 教育理念・目標             | P 4  |
|     | (2) 学校運営                | P 5  |
|     | (3) 教育活動                | P 6  |
|     | (4) 学修成果                | P 8  |
|     | (5) 学生支援                | P 9  |
|     | (6) 教育環境                | P 10 |
|     | (7) 学生の受入れ募集            | P 11 |
|     | (8) 財務                  | P 12 |
|     | (9) 法令等の遵守              | P 13 |
|     | (10) 社会貢献・地域貢献          | P 14 |
|     | (11) 国際交流               | P 15 |
| V   | 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 | P 16 |

## I 学校の現況

- (1) 学校名 名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校
- (2) 所在地 名古屋市千種区今池五丁目24番4号
- (3) 沿革
- |         |  |
|---------|--|
| 平成 3年4月 | 名古屋市千種区今池に名古屋外語専門学校を開校<br>文化教養専門課程 実用英語科を設置          |
| 平成 6年4月 | 商業実務専門課程 国際ビジネス科設置                                   |
| 平成 9年4月 | 実用英語科を外国語学科に改称                                       |
| 平成11年4月 | 外国語学科に英語コースとエアラインコースを設置                              |
| 平成16年4月 | 国際ビジネス科をホテル観光科に改称                                    |
| 平成20年4月 | ホテル観光科にブライダルコースを設置                                   |
| 平成22年4月 | 新校舎(現1号館)完成<br>外国語学科を廃科し、国際エアライン科、英語科、<br>ブライダル学科を設置 |
| 平成24年4月 | 名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校へ校名を改称                            |
| 平成25年4月 | ホテル観光科を国際ホテル科に、ブライダル学科を<br>ブライダル科にそれぞれ改称             |
| 平成27年4月 | 国際エアライン科に航空ビジネスコースを設置                                |
| 平成28年4月 | 国際エアライン科 航空ビジネスコースの学生募集を停止し<br>航空ビジネス科を設置            |
| 令和 2年3月 | 航空ビジネス科を廃科   |
| 令和 2年4月 | 英語本科(四年制課程)を設置                                       |
- (4) 学科の構成
- |          |          |     |
|----------|----------|-----|
| 文化教養専門課程 | 英語本科     | 昼間部 |
| 文化教養専門課程 | 英語科      | 昼間部 |
| 文化教養専門課程 | 国際エアライン科 | 昼間部 |
| 商業実務専門課程 | ブライダル科   | 昼間部 |
| 商業実務専門課程 | 国際ホテル科   | 昼間部 |

### (5) 学生数および教職員数

学生数：441名

教員数：専任 17名、講師 25名 職員数：3名

### (6) 施設の概要

#### 【1号館】

普通教室、エントランス、来客ラウンジ、学生ラウンジ、モックアップ実室  
エアポート実習室、児童英会話実習室、レストラン・バーカウンター実習室、  
英会話実習室、パウダー実習室、バンケット実習室、ゲストルーム、衣裳室  
ブライダルサロン、チャペル、ホテルフロント実習スペース、多目的ホール、  
音楽スタジオ、カウンセリングルーム、図書室、事務室

#### 【2号館】

普通教室、パソコン実習室、保健室、校長室、職員室、講師室

## Ⅱ 評価の基本方針

- ・学校としての組織的な取り組みや成果を調査し、現状や評価できる点、問題点および今後の方策や改善スケジュールを導き出す。
- ・教育水準の向上と保証を図る。
- ・教職員が課題意識を共有する。
- ・家庭や地域に支えられる開かれた学校を築き、相互理解を深める。
- ・「ありがとう」と周囲から感謝される学校づくりに役立てる。
- ・個人情報保護や安全確保に留意して作成する。
- ・具体的なデータに基づき客観的に評価する。
- ・学校自己評価を実施して終わりではなく、教育活動や学校運営の改善につなげる。

### Ⅲ 教育目標・重点目標

- (1) 本学園の建学の精神は「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」である。それに基づき、校訓である「国際性・積極性・協調性」を教育信条にして知識・技術・態度を養うことで、社会の一員にふさわしい資質を育てる。
- (2) 本校の学生たちは、航空業界、ホテル業界、ブライダル業界などサービス業界への就職を目指している。それらの業界で求められる基礎知識、および専門知識を十分に教授する。また、グローバル社会に対応できる英語運用能力と国際人としてのマナー、豊かな創造力と応用力のある人財を育成する。
- (3) 本校は“ホスピタリティ教育”を軸に、社会の情勢、変革などを見極めながら毎日の学校生活の中で「建学の精神」を指導、実践する。  
特に企業から歓迎される「人柄」、つまりチームにおける協調性や、組織に対する貢献を強く意識できる人財を育てる。

#### IV. 評価項目の達成及び取組状況

##### (1) 教育理念・目標

| 評価項目  | 適切… 4、ほぼ適切… 3、<br>やや不適切… 2、不適切… 1 |
|---|-----------------------------------|
| ○学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）     | ④ 3 2 1                           |
| ○学校における職業教育の特色は定められているか                         | ④ 3 2 1                           |
| ○社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか                   | ④ 3 2 1                           |
| ○学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・関係業界等に周知されているか | 4 ③ 2 1                           |
| ○各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか   | ④ 3 2 1                           |

##### 《現況》

完全担任制を採用し、「専門スキル＋語学力＋人間力」を教育目標に学級運営をしている。特にチームワークについて深く学び、仲間と協働することに価値を見い出せる学生が育っている。また、学科に対応する業界のニーズに応えるため、企業の担当者、保護者を迎え教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を行い、教育課程に反映するようにしている。

※昨年度の第二回委員会はオンラインで開催

##### 《課題と改善策》

上記「人間力」、「チームワーク」を育てる手法として、授業内でのグループワーク、学外研修、課外活動、学校行事などを主なものとしてきた。しかし、コロナ禍においては、それらを積極的に行うことは難しく中止せざるを得ないものもあった。一年間の活動を踏まえ、これまで通りのやり方に固執せずウィズコロナの中でも活動を止めないことが大切であると実感した。

様々な新しい課題があふれる現代社会において、企業から求められる人材も日々変化していると感じる。問題発見能力と問題解決能力を備えた学生を育て、社会に貢献できるよう粘り強く教育を行っていきたい。

##### 《特記事項》

特になし

## (2) 学校運営

| 評価項目                                      | 適切… 4、ほぼ適切… 3、<br>やや不適切… 2、不適切… 1 |   |   |   |
|---|-----------------------------------|---|---|---|
| ○目的等に沿った運営方針が策定されているか                     | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○運営方針に沿った事業計画が策定されているか                    | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○人事、給与に関する規程等は整備されているか                    | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか           | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか          | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○教育活動等に関する情報公開が適切になされているか                 | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○情報システム化等による業務の効率化が図られているか                | 4                                 | ③ | 2 | 1 |

### 《現況》

年度始めに理事長および学校長から全教職員に「運営方針」が発表される。その方針に従い、前年度中に計画された事業計画とともに学校運営に当たっている。意思決定等についても運営会議、協議会、各種委員会などの組織が確立され、有効に機能している。さらには電波学園中長期計画に基づき、本校のロードマップ委員会を設置。5年後の目標を策定し達成に向け取り組んでいる。

### 《課題と改善策》

中期計画（ロードマップ）で策定された目標やビジョンを若手教員、新任教職員にもしっかりと浸透させることが課題。課程別ミーティングや教職員連絡会議で周知していきたい。

### 《特記事項》

特になし



### (3) 教育活動

| 評価項目   | 適切… 4、ほぼ適切… 3、<br>やや不適切… 2、不適切… 1 |   |   |   |
|--|-----------------------------------|---|---|---|
| ○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか                             | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○学科のカリキュラムは体系的に編成されているか                                      | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか          | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか           | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか     | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○授業評価の実施・評価体制はあるか  | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか                                 | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか                              | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか                        | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか                       | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか      | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか   | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○職員の能力開発のための研修等が行われているか                                      | 4                                 | ③ | 2 | 1 |

### 《現況》

職業実践専門課程認定学科設置校として各科毎に教育課程編成委員会を設置し、カリキュラムの内容について検討している。また、関連分野における知識と技能を習得できるよう業界の実務経験者を配置し教育を行っている。

教職員の資質向上については、各分野の関係企業の担当者による講話や学内教務研修会、電波学園姉妹校間授業見学研修会、さらに外部研修会として教員のホテルインターンシップ、フィリピン航空CAトレーニング等への参加で授業力のブラッシュアップに役立てている。

### 《課題と改善策》

令和2年度は新型コロナウイルス感染防止対策によって、学生の各業界へのインターンシップ、海外研修、留学、また教員の各種学外研修は中断、または中止となった。学生、教員の知識と技術を高めるため当面はオンラインによるインターンシップ、研修を実施予定。

### 《特記事項》

特になし

#### (4) 学修成果

| 評価項目                                    | 適切… 4、ほぼ適切… 3、<br>やや不適切… 2、不適切… 1 |   |   |   |
|---|-----------------------------------|---|---|---|
| ○就職率の向上が図られているか                         | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○資格取得率の向上が図られているか                       | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○退学率の低減が図られているか                         | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか             | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか | ④                                 | 3 | 2 | 1 |

#### 《現況》

就職実績については、コロナ禍でありながら国際ホテル科には希望者全員がホテル業界に内定。ブライダル科も9割がブライダル企業、およびブライダル関連企業に内定を得た。しかし、国際エアライン科については日本航空、全日空が採用を中止、航空業界への就職を阻まれた。航空業界の採用活動再開の見通しの不透明さを理由とした退学者が複数名出たことも悔やまれる。そのような状況下、令和2年度に客室乗務員の合格者(ソラシドエア、フジドリームエアラインズ)を出したのは中部地区の大学、専門学校の中では本校のみであり、日頃の教育の成果であると自負している。

また、英語資格について英検準一級9名、TOEIC 900点以上5名、800点台15名、700点台15名、600点台27名の結果を出すことができた。

#### 《課題と改善策》

2022年春の卒業生についても日本航空、全日空、スカイマークなどが採用見送りを発表している。また、ホテル業界、ブライダル業界の採用も見送りや大幅な縮小を余儀なくされている。現時点では学生の好きなことの中から新たな分野の企業に目を向けさせるとともに、「なりたいものになって卒業」をコンセプトとしている本校として、卒業後数年間の再就職活動もサポートすることを踏まえて就職指導を行っている。退学については、担任、学科責任者にとどまらず、学科を越えたクロス面談を行うことで、退学抑止に努める。

#### 《特記事項》

特になし

## (5) 学生支援

| 評価項目                                     | 適切… 4、ほぼ適切… 3、<br>やや不適切… 2、不適切… 1 |   |   |   |
|--|-----------------------------------|---|---|---|
| ○進学・就職に関する支援体制は整備されているか                  | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○学生相談に関する体制は整備されているか                     | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○学生に対する経済的な支援体制は整備されているか                 | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○学生の健康管理を担う組織体制はあるか                      | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○課外活動に対する支援体制は整備されているか                   | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○学生の生活環境への支援は行われているか                     | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○保護者と適切に連携しているか                          | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○卒業生への支援体制はあるか                           | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか               | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか   | 4                                 | ③ | 2 | 1 |

### 《現況》

就職指導については、各科において受験企業、職種別に徹底的にサポートを行っている。具体的には入学当初から就職活動の啓蒙、1年次後期から学内企業説明会を開催。授業後の面接対策補講やカウンセリングは内定を得るまで手厚く行っている。また、毎年保護者会を開催し、保護者にも各業界の特徴を理解いただきながら指導にあたっている。

### 《課題と改善策》

コロナ禍となり、会社説明会、採用面接、内定後の研修等がオンラインを占める割合が急激に増加。学内のWi-Fi環境整備が急がれることから、令和3年8月までにネット環境整備工事を完了予定。また、コロナウイルス感染予防対策として検温、手指消毒、マスク着用、換気、クリアボード設置、黙食の啓蒙を行っているが、まだまだ万全とは言えない。教育活動を行いながらどのような対策をしていくべきか、文部科学省、愛知県の指針に従いながら常に最善のアップデートをしていきたい。

《特記事項》

経済的事情で退学を考える学生については、本学園の恒学基金、日本学生支援機構の貸与および給付の奨学金について説明し、アドバイスを行っている。

(6) 教育環境

| 評価項目  | 適切…4、ほぼ適切…3、<br>やや不適切…2、不適切…1 |   |   |   |
|---|-------------------------------|---|---|---|
| ○施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか           | 4                             | ③ | 2 | 1 |
| ○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | ④                             | 3 | 2 | 1 |
| ○防災に対する体制は整備されているか                          | 4                             | ③ | 2 | 1 |

《現況》

施設は各分野の現場を想定した実習室を完備している。具体的にはエアポート実習室、モックアップ実習室、児童英会話実習室、レストラン・バーカウンター実習室、ブライダルサロン、チャペル、バンケット実習室などである。これらは現場の意見を参考に年度毎に施設設備の充実を図っている。

インターンシップについては、ホテル、空港(グランドスタッフ)、児童英会話教室、小学校(英会話授業補佐)など、実際の現場でプロから学べるよう実習先を確保している。また、毎年実施している海外研修の内容は各学科の特色を活かしたものであり、職業実践教育の観点ではクオリティの高いものである。

《課題と改善策》

質の高い海外研修を自負するものの、令和2年度の海外研修、海外留学については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から全科中止とした。令和3年度は学生にとっての大切な教育の機会を確保するため、国内研修、オンライン研修も視野に入れ計画している。

また、今後発生が予測されている南海トラフ地震への対応策については、学園教務委員会において大地震・津波等の事例に基づいて危機管理マニュアルを完成した。これを一つの完成形として、他の事例についても随時作業を進めている。

《特記事項》

平成30年度からシェイクアウト(地震防災)訓練を実施している。

また、本校は災害時の緊急避難場所等として地域社会に協力する旨の「大規模災害時における地域と事業所との支援協力に関する覚書」を結んでいる。

## (7) 学生の受入れ募集

| 評価項目                                     | 適切… 4、ほぼ適切… 3、<br>やや不適切… 2、不適切… 1 |   |   |   |
|--|-----------------------------------|---|---|---|
| ○高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか          | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○学生募集活動は、適正に行われているか                      | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○学生募集活動において、教育成果（資格取得・就職状況等）は正確に伝えられているか | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○学生納付金は妥当なものとなっているか                      | ④                                 | 3 | 2 | 1 |

### 《現況》

高校の進路指導室訪問、高校での進学説明会等で就職実績、資格取得状況等の正確な情報提供を行っている。学生募集活動の要であるオープンキャンパスでは、各科から多くの在校生が「お手伝いスタッフ」として参加協力し、高校生に生の声を届けてくれている。

学生納付金については、実習費も含めて在学中に徴収する学生納付金すべてを募集要項に記載している。

### 《課題と改善策》

18歳人口の激減、大学全入時代を迎え私立大学の学生募集のPRも過熱している。これに先がけ15歳人口の減少により定員割れをしている高校が生徒募集に追われ、大学への高い進学率を謳い文句に、生き残りをかけている高校も多い。そんな中、特に英語科、国際エアライン科は外国語系大学と分野が競合し、毎年学生募集に奮闘している。本校では令和2年4月に四年制の「英語本科」を設置。3年次に全員が海外の大学に留学し、海外の大学の卒業も目指せるカリキュラムとなっている。大学以上に英語学習に特化した英語系専門学校として知名度を高めるとともに、進路研究をしている高校生には何をどう学びたいのか、将来どのように働きたいのかを問いながら、魅力ある人材を育てられる学校として選ばれるよう努めたい。

### 《特記事項》

学生募集時の情報提供は正確かつ誠実であるべきと考えている。入学者の卒業後まで考えた真摯な学生募集でありたい。

## (8) 財務

| 評価項目                      | 適切… 4、ほぼ適切… 3、<br>やや不適切… 2、不適切… 1 |   |   |   |
|---------------------------|-----------------------------------|---|---|---|
| ○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○財務について会計監査が適正に行われているか    | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○財務情報公開の体制整備はできているか       | ④                                 | 3 | 2 | 1 |

### 《現況》

- ・適正な学生数を確保や教職員の経費節減意識により、学校の財務基盤は安定している。
- ・収入、支出を予算化することにより、収支バランスが把握できている。

### 《課題と改善策》

- ・中長期的な財務基盤の安定について、今後の学内組織の変更、教職員の構成の見直し、経費節減等の施策を実施していく。
- ・収入、支出を目的ごとに予算化しているが、計画外の予算が一部あるため、教職員全体で予算化の必要性を理解し、共通認識として取り組んでいく。

### 《特記事項》

- ・会計監査は、毎年1回公認会計士により、会計帳簿、帳票伝票等並びに現金、貯蔵品等の証憑突合監査が行われている。また、内部監査規程による監査（年3回）を行っており、適正に実施されている。

財務情報は、私立学校法に従い、当該年度の財務諸表及び事業報告書を、毎年5月末日までに作成し、理事会の決議を経たのち学園のWebサイトにて「事業報告・財務情報」を毎年更新公開している。

### (9) 法令等の遵守

| 評価項目                           | 適切… 4、ほぼ適切… 3、<br>やや不適切… 2、不適切… 1 |   |   |   |
|--------------------------------|-----------------------------------|---|---|---|
| ○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか    | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○自己評価の実施と問題点の改善に努めているか         | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○自己評価結果を公開しているか                | ④                                 | 3 | 2 | 1 |

#### 《現況》

- ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営を行っている。
- ・個人情報に関するセキュリティポリシーに従って個人情報の管理等を行っており、個人情報に関する内部監査を実施している。
- ・自己評価結果を公表している。

#### 《課題と改善策》

毎年各部門と協力し、自己評価の実施に臨んでいる。内部からは見えにくい改善点については、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会の意見を真摯に受け止めながらより良い教育環境づくりに努めたい。

#### 《特記事項》

学園の教務委員会において、「学園教職員 SNS 使用時のガイドライン」、「学園各校の公式 SNS アカウント利用担当者に対するガイドライン」を各設定し、そのガイドラインに沿って SNS 運用を実施している。



## (10) 社会貢献・地域貢献

| 評価項目   | 適切… 4、ほぼ適切… 3<br>やや不適切… 2、不適切… 1 |   |   |   |
|--|----------------------------------|---|---|---|
| ○学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか             | 4                                | ③ | 2 | 1 |
| ○学生のボランティア活動を奨励、支援しているか                      | ④                                | 3 | 2 | 1 |
| ○地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 4                                | ③ | 2 | 1 |

### 《現況》

高校との連携によるキャリア教育・職業教育の一環として、複数の高校からの依頼で高校生向けに「マナー講座」、「就職面接対策講座」を実施。また、高校教員対象の「就職面接指導のポイント講座」も行っている。また、SDGsの一環としてフィリピンのNGOと提携しフェアトレードを行った。今後も授業内でディスカッションをしながら、SDGsプロジェクトとして社会貢献について考えていきたい。

### 《課題と改善策》

学生たちの日頃の学びが生きる社会貢献でありたい。市民対象のスクールウェディング、テーブルマナーセミナー、キッズイングリッシュなどの催事を検討したい。

### 《特記事項》

#### ボランティア活動

(1)国際エアライン科の学生による歌と踊りのサークル「青春ガールズクワイア」が、地域振興策の一環として、セントレア、アスナル金山、ららぽーと名古屋などの商業施設の依頼を受け、クリスマスイルミネーション点灯式ライブなどを行っている。

(2)海外研修時に、フィリピン・マニラの貧困地区トンドにおいて、幼稚園でのボランティアを行っている。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染予防対策のためほとんどの実施を見送ったが、名古屋市主催の「防災フェスタ2020」で防災啓蒙のライブ、中部国際空港セントレアの空港音楽祭に出演した。

## (11) 国際交流

| 評価項目                                 | 適切… 4、ほぼ適切… 3、<br>やや不適切… 2、不適切… 1 |   |   |   |
|--------------------------------------|-----------------------------------|---|---|---|
| ○留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか     | 4                                 | ③ | 2 | 1 |
| ○留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか   | ④                                 | 3 | 2 | 1 |
| ○学修成果が国内外で評価される取組を行っているか             | 4                                 | ③ | 2 | 1 |

### 《現況》

留学生の受入れ、在籍管理を適切に行っている。国際交流については法人事務局国際交流室が主導で行い、依頼に応じて適宜対応している。

### 《課題と改善策》

留学生の入学希望者からの問い合わせが増えているが、日本語能力がN2に達しておらず、受け入れられないことも多い。この件については、入学後の授業内容や学内・外活動の観点からやはりN2以上を取得していなければ入学許可はできないと考える。

### 《特記事項》

特になし

## V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校はホスピタリティ教育を軸にグローバル社会に対応できる英語運用能力と国際人としてのマナー、豊かな創造力と応用力のある人財の育成を目標としている。

卒業後に目指す分野が航空業界、ホテル業界、ブライダル業界が中心である本校は、昨年度コロナ禍の影響を大きく受けた。特に大手航空会社の採用が中止となった国際エアライン科の教育現場は、突然目標を奪われた学生たちへの様々な対応が求められた。卒業後の新たな進路を見つけ出すため、「何故働くのか。得意なこと、興味のある分野は何か。新しく見つけた企業のビジョンやミッションが自分の思い描く未来に繋がっているのか」などを授業内外で、また就職カウンセリングを繰り返す中で学生と共に模索した。その結果、英語力とコミュニケーション能力を武器に、児童英語インストラクター、国内外ホテル、輸入車ディーラー、新幹線パーサー、大学三年次編入などに方向転換することができた。「なりたいものになって卒業」をコンセプトとしている本校であるが、それが叶わない現実と向き合いながら、学生にとっての最良を何度も深く考える一年となった。そういう中でも少数名の客室乗務員採用枠があったソラシドエアとフジドリームエアラインズに合格者を出すことができた。これは中部地区の大学、専門学校の中で唯一本校のみであり、日頃の教育の成果であると考えている。

また、ブライダル科と国際ホテル科は9割以上の学生が専門分野に就職内定。国際ホテル科はホテルニューオータニ、パレスホテル東京、帝国ホテル大阪、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル、パークハイアット京都、ジェイアール東海ホテルズ、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋などの老舗ホテル、外資系ホテルに合格者を多数輩出。ブライダル科はアイ・ケイ・ケイ、スタイルズ、鳥善、ブライダルハウスチュチュ、ゼットンなど上場企業、人気企業に例年に続き合格実績を出した。これらは学科責任者、担任のきめ細やかなサポートと、長年にわたり培ってきた企業との強い信頼関係の構築故である。

学習成果については、特に英語力の向上が挙げられる。英検準一級9名、TOEIC 900点台5名、800点台15名、700点台15名、600点台27名の実績を上げることができた。児童英語指導者資格の取得率も向上。これは新型コロナウイルス感染の予防対策を行いながら、対面授業を続けたことが大きく関係していると分析している。

一方、退学者率は5.6%となり、目標の5%以下を達成することができなかった。特に目標とする航空業界への就職が望めないことからの退学、希望していた留学ができないことを理由とした退学が目立った。コロナ禍でも達成可能な新たな目標を早期に持たせてあげることができなかったことが反省事項である。

ウィズコロナ、アフターコロナ下においては複雑で変わりゆく世界に柔軟に対応できる知識と能力が求められると考える。また、グローバル社会に対応できる英語運用能力と問題発見能力、問題解決に向かえる豊かな想像力と応用力も身に付けさせたい。

最後に、本校では有名企業に就職させることが教育のゴールとは考えていない。身に付けた学びを基礎に、自分がしている仕事に意味を見い出し、社会というチームの中で組織や仲間と協働すること、社会貢献することに価値を感じながら豊かな人生を送ってくれることが最大の願いである。これが「名外専ブランド」であると考えている。

以 上